
手紙

グロ黒馬鹿人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手紙

【Zコード】

N3258M

【作者名】

グロ黒馬鹿人間

【あらすじ】

ある研究の従業員の主人公と実験体の人のとつても短い話です。微妙に残酷な描写があります。

(前書き)

初めて投稿するなんであんまりいい話でもないです。
とっても短くて物足りないかもしません。
こんなものでもよかつたら読んでください！

これを読んでくれる人はいないかもしだれませんがそれでもかまわない。なぜかとこの世界は永遠だから。。。ワタシにとつての永遠だから。。。

第一枚目

この時の私は今より元気のある活発な人だつた気がします。そしてこの世界は今みたいにどよんだものでなくすべてがきらきら光ついてすべてが眩しかつた気がします。

その世界が途切れてしまったはある日の午後。

世界全国で緊急放送が流れました。その放送によるともうすぐこの世界は崩れて消え去つていくんだそうでした。みんなはそれを信じませんでした。でも私はその放送を聞いてそれは本当なんだろうなとなんとなく思いました。たぶんみんなも同じことを心のどこかでそれを感じているんじやないかと思います。そしてその状態が3日間ぐらい続いてみんなは安心したみたいでした。私はまだ安心はできないのではないかと思いました。そしてその予感は2週間後的にするということを私も他のみんなも知らないのでした。

2週間たつてみんながまたたりしている土曜日の午後の3時くらいに突然それはやつてきました。

一瞬世界が真っ白になりそして私が気がついたときはみんないなくて私だけが残つてきました。

気がついてからあんまり時間がたつてないようと思えますがどうなのが?よくわかりません。

さつきから左手が痺れたような感覚があつたのですが今ではもうその痛みとかすべてがなくなつてしましました。どうせみんな消えるのでしようからこんなの書いても意味ないと思います。でもこれが私の遺書がわりですので一応書いときます。なんとなくこうしているのが好きなんです。本当は一瞬世界が真っ白になつた時のことも覚えていたんです。でもその記憶は今ではほとんどゼロにちかいほど忘れてしました。きっとこの記憶がゼロになつたとき私は消えてるんでしょうか?わからない。たぶん今の日本には私以外誰も

いないんじやないでしょうか？それを確かめることで私もできません。これで終わりです。

もうすぐわた

手紙はここで終わっている。

「せんぱ~い! セヒヤと終わらせましょーよ! 。。。

後輩の声で現実に引き戻された。

一はい。じゃあナンバーの確認をしましょう。」

この人のナンバーは1550番で

麗歌……………かで聞いたことある以前…………。

•
•
•
•
• ○

「せんぱーい。終わらせましょーよ・・・・・。ヤバイ・・・・。睡魔

が

「もう少しの辛抱よ。

思い出した。ずっと忘れてた。この子を持ち上げて顔が見えて・・・

思い出した。

これに
•
•
•
•
•
私の
•
•
•
•
•
•
•
•

先輩の手紙

いえなへてもなし

卷之三

私はいつもこの実験の犠牲者の体を焼く場所へ行く。そこはこの実験の犠牲者の体を焼く場所。いつも午前0時になると火がつく設定になつていていため午前0時になるとまではこここの腐臭は死体が積もつていくたびに酷くなる。新人はこの臭いになれるのに5週間くらいかかる。それほどこの臭いは凄いということだ。

そのなかに零歌を捨てる。私の元妹の零歌を・・・・・。これで終わりだ。

後輩が

「もう……帰つて……いい……ですか?」

と聞こいてくる。相当眠こみうだ。私は
「もう帰つていいわよ。さよなら。」

「さよ・・・・・なら。」

後輩が遠ざかって行く。私は死体を捨てた場所に向かつて言つた。
「「めんね。」

そつとだけ言つて妹の死体があるこの場所から離れる。

これで終わり。本当の終わり。私は自分の住んでいるマンションに戻る。そしてマンションの屋上へ・・・・・。
そして・・・・・・・。

遠くで私の名前を呼ぶ零歌の声を聞いたような気がした。

(後書き)

この作品は読者にとってはつまんないかもしませんが個人的に始めての投稿に少しどきどきしながら精一杯書きました。

この作品以外にもまた作ろうと思っています。

もしこれで気に入ったのならこれからよろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3258m/>

手紙

2010年12月18日17時01分発行